

開通50周年!



只見町を半世紀支えた只見線



只見線は、大正15年に会津若松駅から会津坂下駅間が会津線として開業し、延伸や編入などをおこなないながら、昭和46年に会津若松駅と小出駅を結ぶ全長135.2キロの現在の只見線として全線開通しました。今年で全線開通50周年を迎え、記念式典が全線開通日の8月29日に只見駅前広場で行われました。

式典では、渡部町長（JR只見線利用促進実行委員会）、山下会津坂下駅長（東日本旅客鉄道株式会社）の主催者あいさつ後、内田市長（魚沼市）、金子局長（県南会津地方振興局）、大塚議長（只見町議会）よりご祝辞をいただきました。式典の最後にくす玉を開披し、只見線全線開通50周年を祝いました。

主催者より

只見町 渡部 勇夫 町長

JR只見線は、昭和46年に只見駅～大白川駅間の開通により全通し、新潟県と奥会津地方が結ばれました。当時の全線開通記念誌には、当時の田中通産大臣をはじめ、新潟・福島両県知事や日本鉄道建設公団総裁等も只見線に乗車された写真があります。熱気に溢れ、いかに期待の大きなものであったかがわかります。

多くの皆様のお陰をもちまして、只見線は来年全線再開する予定となっております。アフターコロナの価値観は沿線の地域の価値観に沿うものと期待しております。私たちも協力し合い取り組んでまいります。今後とも皆様のご理解とご支援を心からお願い申し上げます。



東日本旅客鉄道株式会社 山下 鎮男 会津坂下駅長

只見線は、只見川で見られる川霧や紅葉時期の山々、雪が降り積もる冬には白銀の世界に包まれるなど、四季を通して素晴らしい景色が見られることでも知られ、雑誌やインターネットなどでも取り上げていただく路線でもあります。

2011年7月の「新潟・福島豪雨」により、鉄橋の流出や土砂崩れによる線路の崩壊などで、会津川口～只見間については、バスによる代行輸送を行っておりますが、2022年中の全線運転再開を目指して復旧工事を進めています。運転再開後につきましても、今までと変わらぬご愛顧を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

只見線全線



「只見海里」や「1分駅長記念撮影」が
50周年を盛り上げました！



▲「1分駅長」は埼玉工業大学本吉裕之准教授と渡部さんにご協力いただきました

当日は、羽越本線で運転している観光列車「海里」が「只見海里」として只見線を初運行し、只見駅停車中に町民限定で車内見学が行われました。

また、駅前では埼玉工業大学3年生の渡部和加さんが考案した三石神社にちなんだキャラクター「三石縁（みついしゆかり）」と「三石結（みついしゆい）」のパネルと共に「1分駅長」として記念撮影ができるコーナーが設けられました。

他にもレールスター乗車体験や鉄道ジオラマ展示、50周年記念弁当の販売などが行われました。



▲レールスター乗車体験は、子どもから大人まで楽しむことができ、貴重な経験となりました



▲子どもたちも精巧なジオラマ風景に見入っていました



記念弁当は2種類販売されましたが、どちらもすぐに完売しました

来年は、只見線全線再開通予定です。
引き続き只見線の応援をよろしくお願いいたします。

